

あでかけ美術館にあでかけ!

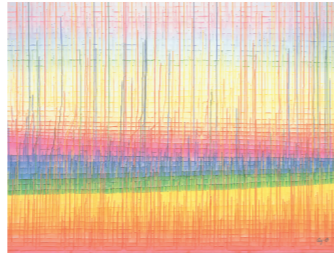


当館のコレクションは、県外、時には国外におでかけすることがあります。他館で開催される展示にお貸出した作品は、場所やみせ方を変えていただくことで、当館とは違うよそ行きの顔をみせてくれます。「こんなに立派になって…」と不思議な親心を抱くこともしばしば。

南館工事の関係により、館内でコレクションをご覧いただけない期間に当館の作品たちがまとめておでかけします!夏には、今治市玉川近代美術館と当館の同じ作家の両館作品が並びにぎやかな展示が、そして冬に生まれた中川八郎の誕生日を含む時期には、生まれ故郷にある五十崎風物館に中川の油彩画が並びます。ぜひ、いつもと違うコレクションに会いに東に南にとおでかけください! (喜安 嶺)



中川八郎《秘野残雪》1920(大正9)年



齋嘯《Rainbow Rain》1977(昭和52)年

コレクション・ハイライト



すぎうら ひすい
杉浦 非水



この作品は杉浦非水の代表作のひとつ。今から約100年前の三越デパートのポスターです。この中に、いったいどれだけの『デパートのゴージャス感』が隠れているのでしょうか。日本のモノと西洋のモノで溢れているポスターです。しかし、雑然とはしていません。いったい彼は、どんなデザインの『魔法』を使っているのでしょうか。美術館では今年度から所蔵作品を相棒に、みなさんに「県美」をもっと面白がっていただくための挑戦を始めました。コンセプトは『よくみよう。もっと、よくみよう。』です。さて、この続きは常設展示室で。みなさんのお越しをお待ちしています。(鈴木 有紀)

《三越呉服店 春の新柄陳列会》1914(大正3)年(展示期間:コレクション展II 8月12日(月・振休)まで)

教育普及プログラム

告知: 夏休みイベント とばせ!くるくる

8/11(日・祝)、12日(月・振休) 各①10:30~11:30 ②15:00~16:00

※参加無料、申し込みは不要、開催時間に本館エントランスにて随時参加可能。

今年は、開催中の展覧会「森のなぞぞ美術館」にちなみ、飛ぶ種のしくみを用いた「とばせ!くるくる」を開催します。本館エントランス、正面の大きなガラス手前、2階の通路(8m高)より飛ぶ種の形をした紙を飛ばし、回転しながら落下する様を楽しみます。紙質や大きさにより落ちる速度や回転速度が変わります。一つを飛ばしじっくりと回転を楽しんだり、いっぺんにたくさん落として違いを楽しんだり、くるくる回りながら落ちてくるのを遠くからながめたり、真下から見上げてみるなど、楽しみ方も様ざま。

これまででは、長方形の紙下2/3を巻き付け、上部を二つに割り羽根状にして飛ばす「くるくる」を楽しんでいましたが、今年は、新型も登場予定。乞うご期待!(田代 亜矢子)



鉛筆と樹脂製メジャー

作品調査などの際、作品のサイズを測り、記録するために鉛筆と樹脂製のメジャーを使っています。なぜ鉛筆を使うのかというと、万が一にでもペンのインクが誤って作品についてしまったり、シャープペンの尖った金属製のペン先が作品を傷めてしまったりすることを防ぐためです。(シャープペンはペンとの見分けがつきにくいという理由もあります)柔らかい樹脂製のメジャーを使うのも同じ理由からです。

展示を観ているとき、メモを取りたいと思っても、鉛筆以外の筆記用具の使用禁止の掲示を目にして、不便だなと感じられたことがあるかもしれません。しかし、それには上記のように作品の破損につながることを防ぐ目的があるのです。(横尾 真絆)



愛媛県美術館
https://www.ehime-art.jp/
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
tel.089-932-0010 fax.089-932-0511



ご利用案内

- 開館時間 9:40~18:00(入室は17:30まで)
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29~1/3が休館日)

編集後記

当館もあっという間に開館26年目を迎えています。年月とともに着実に堆積するものもあり…日々の忙しさにかまけておろそかになっている掃除や整頓の大切さをひしひしと感じています。さて68号の発行となりました。引き続きコツコツと館のこまめな情報を発信します。(杉山 はるか)

カンフォロ Canforo No. 68



愛媛県美術館ニュースNo.68 2024
発行日=令和6年7月10日
編集・発行=愛媛県美術館
※所蔵先の表記のないものはすべて当館所蔵作品



県立美術館時代の
初代警備犬をモチーフにした
マスコットキャラクター
「ネコ」(左)と「タイ」(右)

企画展

WORLD HERITAGE EXHIBITION 世界遺産 大シルクロード展 THE GREAT SILK ROAD

2024年6月22日(土)~9月1日(日)



《鳳首杯》唐・8世紀/一級文物/陝西歴史博物館蔵

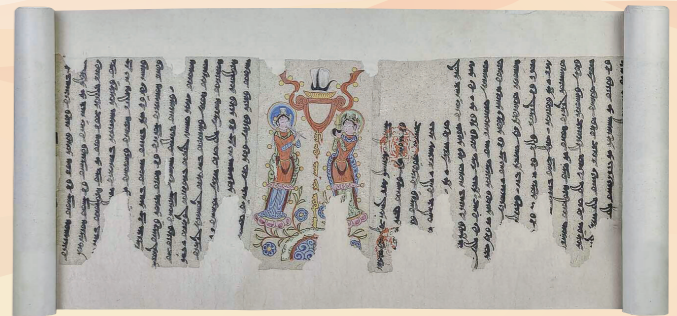


《瑪瑙象嵌杯》5-7世紀/一級文物/イリ州博物館蔵

した民族の影響を受け、異国風の服飾や音楽が流行しました。本章では、東洋と西洋の文化の融合によって生まれた、華やかな美術品をご紹介します。

シルクロードは、仏教東漸の道でもありました。鳩摩羅什や玄奘三蔵ら、仏典を漢訳した訳経僧たちも、シルクロードを辿っています。第3章では、敦煌とトルファンで出土した『法華経』の写本や、ホータンやトルファンの仏教壁画、敦煌莫高窟の壁画の模写など、仏教東漸を伝える多彩な文物や、中国仏像の優品をご覧ください。

本展は、中国国内27か所の研究機関・博物館の所蔵する、シルクロードに関わる文物が一堂に会するまとと無い機会です。この夏は当館にて、シルクロードの世界を余すことなくご堪能ください!(若本 成美)



《マニ教ソグド語の手紙》11世紀初め/一級文物/トルファン博物館蔵

中国から中央アジア、西アジア、ヨーロッパの都市を結ぶ壮大な交易路、シルクロード。紀元前2世紀から15世紀半ばにかけて、様々な民族が絶えず往来したことにより、商業のみならず、文化や宗教にも大きな影響をもたらしました。本展では、シルクロードで花開いた多彩な文化を、金銀宝飾品や染織品、絵画、経典、仏像など、中国の一級文物(中国における文化財の区分。一級文物は日本の国宝に相当)44点を含む約200点を通してご紹介します。

本展は、3つの章から構成されます。第1章では、オアシス都市を往来した民族に関わる品々をご紹介します。シルクロードの国際共通語として知られる、ソグド文字で書かれた《マニ教ソグド語の手紙》や、動物や植物の文様が織り出された染織品など、オアシス都市に生きた人々の様子を鮮やかに伝えます。

続く第2章では、「シルクロードの黄金期」ともされる唐の時代の美術品を展示します。多民族国家であった唐では、商業の民としてオアシス都市を往来したことで知られるソグド人をはじめ、国外から移住



南館改修工事のお知らせ



大規模な空調改修工事を行うため、8月から2025年4月までの見込みで南館を閉館いたします。工事の進み具合等から期間が変更になることも想定されますのでご了承ください。

つぶやき



この4月に館長に着任しました。最初はどのようにしたら来館者に親しみのある美術館にできるのかなど五里霧中の日々でしたが、時が経つにつれ、その道筋が少しずつ見えてきたような気がします。今後も皆さんが身近に感じられ、癒されるような美術館にしたいと思ひ職員一同頑張りますので、どうぞよろしく願ひします。(海野 誠司)



R6年度アートの森プロジェクト

森のなぞなぞ美術館 V

「わけいってもあおいやま」

2024年6月1日(土)~8月12日(月・振休)

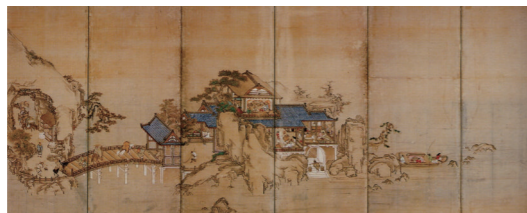
今年で5回目を迎える「森のなぞなぞ美術館」。作品をじっくりみだ時にうかんでくる「？」を大切に、そして作品をとおして愛媛の森林も大切に感じて貰えるようなコレクション展を開こう、との思いからスタートしました。今年のテーマは、種田山頭火の名句「分け入つても分け入つても青い山」から想を得ています。約12,000点からなる当館のコレクションは、時代、地域、そして技法も様々に、季節や高度で姿を変えていく山にも似て、分け入り甲斐のある、豊かなものです。この夏、楽しい作品がとどりに並んだこちらの山に、ぜひ軽装備でご入山ください。

また今回は、アニメーション、タイポグラフィ、書籍や砥部焼など、多様なメディアを縦横無尽に闊歩する実験漫画家の西武アキラさんを特別招待作家としてお迎えています。本展のための新作、レンチキュラーの大作《トキノハ》や燃えることのない砥部焼の本《本の森》(451シリーズ)、当館コレクションとのコラボレーションもお見逃しなく！(喜安 嶺)

畦地梅太郎《山を行く》1973(昭和48)年

横山大観《曳船》1905(明治38)年

collection 新収蔵品紹介



松本山雪《諸芸遊楽図屏風》江戸時代前期

R5年度は、145点の作品がコレクションに加わりました。内123点の国内外の主要作家の作品を多く含む写真作品は、山川コレクションとして一括寄贈受入したものです。年度末の展覧会で一堂にお披露目します。合わせて西予市(旧野村町)出身で京都を拠点に活動した松本仙拳(1880-1932)の文展・帝展入選作を含む14点(寄贈)、日尾八幡神社(松山市)の神官で、書家として名を馳せた三輪田米山(1821-1908)3点、初代松山藩御用絵師の松本山雪(?-1676)2点(各購入・寄贈)、富岡鉄斎(1836-1924)、中川八郎(1877-1922)、松浦巖暉(?-1912)各1点ずつ(いずれも寄贈)が収蔵されました。

松本山雪《諸芸遊楽図屏風》は、碁や書画等多様な遊楽や芸道に銘々興じる様が緻密に描かれており、完成度が高い作品です。ウジェーヌ・アジェ(1857-1927)は20世紀初頭の変わりゆくパリの街や人々の営みを記録し、「近代写真の父」と称されました。《日食》はレンズ越しに太陽を観察する人々をとらえた、どこかユーモアのある作品です。(杉山 はるか)



ウジェーヌ・アジェ《日食》1912年(山川コレクション)

BANKSY

& STREET ART (R)EVOLUTION



Banksy 《Girl with Balloon》2004, Serigraph on paper, Private Collection

テレビ愛媛開局55周年記念
バンクシー&ストリートアーティスト展
—ストリートアートの進化と革命—
BANKSY & STREET ART (R)EVOLUTION
2024年9月7日(土)~11月17日(日)

近年、バンクシーの活動により、広く知られているストリートアート。そのはじまりは、1970年代のニューヨークで、貧困や治安の悪化など、社会不安のなかにあった若者たちが地下鉄車両や駅構内に書き込んだ通称「タグ」と呼ばれる自身のサインでした。彼らは徐々にタグのレタリング技法や色を工夫しはじめ、自らのスタイルを確立していき、グラフィティは社会現象となりました。

本展では、グラフィティ時代の先駆者たちの作品から始まり、グラフィティアートとファインアートの橋渡しをしたヘリングやバスキア、ヨーロッパや日本にて活躍するストリートアーティストまで、バンクシー作品を含む約90点を紹介します。また作品に加え、ライターのアイディアが詰まった貴重なスケッチブック(通称ブラックブック)やマーカーペンなど、



Pro 176 《Astro Anatomy》2011, Acrylic on canvas ©Artrust - Courtesy of the artist

ストリートアートの歴史を築いてきたさまざまなアイテムも展示します。この秋は、ストリートアートの誕生から現在に至るまでに起きた、(R)EVOLUTIONを美術館で感じてみてはいかがでしょうか。(宇野 茉莉花)

This exhibition is curated by Patrizia Cattaneo Moresi, in collaboration with 24 Ore Cultura and Artrust. The exhibition is a private collection, not authorized by the artist Banksy and anonymous Street Artists.

企画協力：ホワイトインターナショナル

Topics

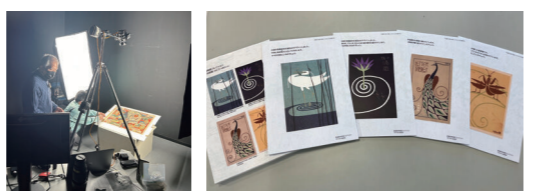
伝統工芸コーナーからミニギャラリーへ!

当館の本館1Fエントランスに、小さいながらも展示スペースがあるのをご存じでしょうか? これまで永らく「愛媛の陶芸展」の受賞作品を展示していましたが、同展の終了に伴い、昨年の1月から、工芸を中心とした当館の収蔵品や講座・アトリエ教室での制作物、作例などを展示するスペース・ミニギャラリーとして新たに稼働しはじめました。年に数回展示替えも行いますので、当館を訪れた際は、ぜひこちらのスペースものぞいてみてください。(横尾 真耕)



文化観光推進事業

令和2年4月に公布された「文化観光推進法」は、全国の博物館や美術館、社寺・城郭などの施設を中心に、文化についての理解を深める機会を拡大し、国内外からの観光客の来訪を促進させることで、地域文化の魅力発信・活性化に寄与することを目的とするものです。これに基づき、当館は令和5年9月に「文化観光拠点施設」に認定されました。開館30周年を迎える令和10年度までの5年間で、拠点施設としての機能向上にかかる様々な事業を計画的に実施していく予定です。(長井 健)



令和5年度実施事業より(作品撮影、触図制作)



この4月から学芸課長に就任しました。美術館に採用されたのは2003年4月でしたから、早いものでもう22年目になります。いろいろなことを経験してきたこれまでの糧に、学芸員の皆をまとめるという新たな重責を果たすべく、これからも頑張っていきたいと思えます。(長井 健)



長年、カンフォロの編集後記(ハトの声)を担当していたこともあって、なんと初「つぶやき」となりました。城山公園では、ハトをはじめたくさんの野鳥の姿が観察できます。来館する前に「みる」ウォーミングアップをどうぞ！(石崎 三佳子)

本館改築130周年

道後温泉ものがたり

湯のまちの歴史と文化

2024年9月16日(月・祝)~11月4日(月・振休)

日本最古の温泉として知られる道後温泉。そのシンボルとして広く親しまれている道後温泉本館(重要文化財)は、明治27年(1894)に神の湯本館棟が現在の3階建てに改築されてから130周年の節目を迎えるとともに、平成30年度から行われてきた保存修理事事も今年度完了する予定で、この夏5年ぶりの完全営業再開となります。

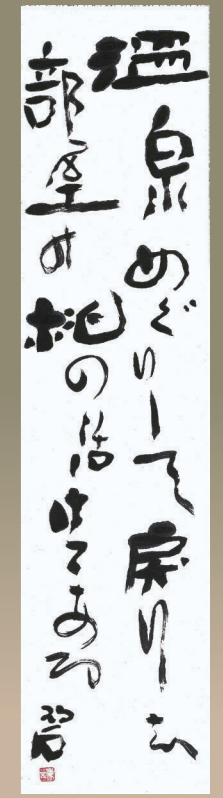
本展はこれを記念し、神話の時代から現在に至る道後温泉の長い歴史と、伊予松山における文化の一大集積地とも言える「道後」という地で展開した独自の文化芸術の流れを一望するものです。道後地域の歴史的経緯をたどる数々の貴重な資料(考古、古文書、絵画など)や、保存修理事務中に当館が協力した調査によって見出された道後温泉本館伝来の美術品、さらに多くの芸術家たちが道後温泉を訪れた際に制作した作品や、道後を主題とした郷土作家たちの作品などを展示し、多様な視点で“文化遺産”としての道後温泉の価値と魅力を考えます。

展覧会を見てから道後に足を延ばすもよし、温泉に入ってから美術鑑賞するもよし、是非とも美術館⇄道後温泉の周遊をお楽しみください！(長井 健)

このアツい展覧会には、いろいろな効能があります。



山田術居《大國主命・少彦名命像》(部分) 明治時代 松山市蔵



河東碧梧桐《俳句(温泉めぐりして...)》 大正時代